

家族とのふれあい

今年も一年の最初の「正月」を迎えました。昔から「一年の計は元旦にあり」と言われています。今年一年の目標をしっかりと立て新たな気持ちで、この一年を充実した年となるようにしたいものです。

ところで、今の大人達の子どもの頃の「正月」というと何を思い浮かべるでしょうか。家族でこたつにあたり、みかんでも食べながら、カルタ・トランプ・すごろく……などをしたものでしょうか。

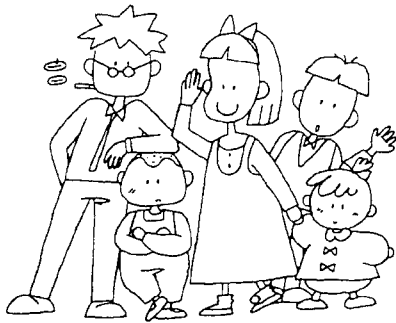
今の子どもの達の「正月」の過ごし方といったらどうでしょうか。自分の部屋に閉じこもっての受験勉強・ファミコン・CD鑑賞、あるいは、正月早々から塾通いでしょうか。

『家族のふれあい』といったことを考えてみると、非常に薄れてきているように思います。「正月」という情緒も感じられないようになってきているのではないのでしょうか。

「正月」の遊びの中で、今の大人達の子どもの頃と比べて、何が一番違うのでしょうか。一番関係していると思われるのは、子ども達の遊びの対象が、「ヒト」ではなく「機械」であるという点ではないでしょうか。黙々とファミコンなどに向かう世界では、誰に邪魔されることなく、自己中心の別の世界がそこには存在します。それは、自分の深い考えなど必要の

ない、とても楽な世界です。

一方、今の大人達の子どもの頃はというと、こたつを囲みトランプなどをする時、そこには、場面場面でのいろいろな会話が飛び交い、常に「自分」という人間の存在感がありました。そして、そこでは他人との協調性も生まれます。少なくとも自分の考えというものをしっかりと持ち、話しを交わす場があったのではないのでしょうか。



このように家族と一つのこたつを囲みながら、自分という人間をアピールする。そんな時は実に充実感に満ちた自分がそこにあり、家族の温かさというものもしみじみ感じさせられたように思います。そんな意味からも、もう一度、われわれ大人達が「正月」という独特の雰囲気のある月を、改めて『家族とのふれあい』を振りかえられる月にできればと思います。

ある中学一年生は、家族について次のようなことを書いています。

僕たちは、家族との休日の過ごし方に問題があります。なぜかというと、お店をやっているからです。お店をやっているのです。休みの日が決まっているのです。だから、その休みの日にならなければ、家族とゆっくり過ごすことができません。でも僕は、数少ない休みを大切にしています。

休みの日になると、皆早く起きています。そして、皆で今日一日の予定について、いろいろ話しをして決めます。一番楽しいのは、家族全員で遠くへ出掛ける時です。その時は何が一番楽しいかというところ、知らない所の景色が見られることはもちろんですが、家族皆と、のんびりいろいろな話ができることです。そして、この時が一番ほっとする時です。遠くへ出掛けない時は、家で草とりをしたり、ずっとのんびりとしています。でも、どちらかというと、家族皆で出掛ける方が僕はいいです。僕たちは、数少ない休みをとても大切にしています。そしてこういう機会がもっとあればいいと思います。

今、子ども達は、「家族」という温かさを求めています。『家族とのふれあい』を大切に生活することが、今一番重要なことではないのでしょうか。

男女共同参加社会をめざす講演会 テーマ 『自分らしく生きる 一秒の重さ』

講師 石川牧子さん

(日本テレビアナウンサー)



プロフィール

昭和24年、山形県鶴岡市生まれ。

東京女子大学・短期大学部英語科卒業後、日本テレビアナウンサーとして入社、活躍中。

かつて、アフガニスタンの女性難民にアタック、世界の中で始めて取材に成功した。

貴重な実績をもつ、日本テレビの顔として存在価値を高める数多くの番組を担当している。

期	日	1月27日
場	所	文化会館4階大ホール
受	付	午後1時～1時40分
開	会	午後1時40分～2時
行	事	午後2時～3時30分
講	演	午後2時～3時30分
主	催	都留市
		都留市教育委員会
		都留市連合婦人会
		都留市婦人団体連絡協議会

皆さんお誘い合せのうえ多数ご来場くださいますよう、ご案内申し上げます。《入場無料》